

**定住自立圏構想**

# **中心市宣言書**

**平成 21 年 4 月 24 日**

**福岡県八女市**

# 八女市定住自立圏中心市宣言

八女市は福岡県南部に位置し、周囲には耳納山地、筑肥山地等の風光明媚な山々がめぐり、肥沃な大地と温暖な気候に恵まれた中山間地である。「八女」の名は、日本書紀に女神「八女津媛」の記述がみられ、地名の起源説話になっている。丘陵地帯には萌えるような緑の茶畑が広がり、平野部には田園地帯が広がり、福岡・大分県境にそそり立つ霊峰釈迦・御前岳から源を發し、蛍の舞う清流が溪谷を刻み、有明海へと注ぐ矢部川は、平野部に肥沃な耕土を育み、山紫水明の豊かな自然環境に恵まれた地域である。

6世紀前半に、八女地方を拠点として北部九州を統治していた筑紫君磐井の墓とされる岩戸山古墳（国指定史跡）をはじめとする、丘陵地帯に連なる大小無数の八女古墳群は、八女地方が古の時代より定住の条件にかなない、北部九州の要地として栄えたことが推察される。

中心の福島地区には福島城が築かれ、筑紫氏・田中氏の城下町として開け、廃城後は市場町として発展した。明治時代に福島町に郡役所が設置され、行政・教育・商業などの機関が次々と集中立地し、八女地域の政治経済の中心地として栄え、現在も公共施設・文化施設が集積しシビックゾーンを形成している。

江戸時代には八女地方の物産集積地として栄え、明治時代に市を南北に貫く国道、東西に走る県道が開削され、大正時代にかけて軌道の整備が図られ、戦中戦後には鉄道が敷設されるなど、中心部は交通の結節点として位置づけられてきた。現在は市の西端を九州自動車道が縦断し、八女インターチェンジを有しており、国道3号線が南北に貫き、これと交差して国道442号線が東西に走り、主要地方道などと連絡して、福岡都市圏及び周辺市町村に通じる、県南部における交通の要衝となっている。

全国ブランドの「八女茶」、生産高トップレベルの「電照菊」をはじめとする豊富な農作物や、国指定伝統的工芸品の「八女福島仏壇」や「八女提灯」、さらに「手すき和紙」や「石燈籠」などの伝統工芸品を生産するとともに、中心市街地にある白壁の町並み（重要伝統的建造物群保存地区）には、江戸時代からの町家建築が今も息づいている、美しい自然と農業、伝統と歴史を育む地である。

しかし地方の将来を展望すれば、長期にわたる全国的な景気の低迷に加え、サブプライム住宅ローン問題に端を發した世界的な金融危機などのマイナス要因が、国内外の経済活動や住民の生活に影を落としており、企業の倒産は増加し雇用情勢も急速に悪化しつつあり、景気の低迷はさらに深刻化する恐れが高まっている。地方自治体を取り巻く状況においても、景気減速により税収が伸

び悩み依然として不透明な経済動向の中で、今後も全国的に地方都市では財源の確保が厳しい状況が続くと予想され、このことは本市においても例外ではない。こうした中、地方分権の推進により地方自治体の責務と行動力が一層求められる時代が、今まさに到来している。

八女地域では、平成 18 年 10 月に八女市に旧上陽町が編入合併し、さらに、平成 22 年 2 月には、八女市に周辺 2 町 2 村(黒木町・立花町・矢部村・星野村)が編入合併し、新八女市が誕生する予定である。合併後の枠組での 65 歳以上の老年人口割合は、27.5%(平成 17 年国調)に達し、県平均(19.8%)・全国平均(20.1%)と比較しても高齢化が進行している地域といえる。

八女地域においては、従来より日常生活文化圏を構成しており、圏域内での通勤・通学・通院・買物等の日常生活圏が一体化していることを再認識し、地域の魅力や活力を生かし、圏域全体の一体的な機能強化を展望したい。とりわけ、条件不利地域といわれる山間地域の課題解決と圏域全体の均衡ある発展に向けて圏域自治体が連携し、定住と地域の自立を進める「定住自立圏」を確立するものとする。

そのため、「定住自立圏」構想に掲げる将来像に向けて、定住自立のために必要な都市機能の充実を図り、定住に欠かせない地域公共交通の維持・確保や情報通信基盤整備などのネットワークの強化、地域医療体制の整備など生活機能の強化に向け、八女市は圏域住民とともに圏域全体の連携と役割分担のマネジメントを担い、未来に向かって躍動し続ける八女地域をめざすべく、圏域の中心都市となる覚悟をここに示す。

今般、八女市は圏域の中心都市としての自覚に基づき、平成 22 年 2 月に合併予定の周辺 4 町村をはじめ、周辺自治体との連携も展望しながら、圏域全体の均衡ある発展と一体化のために理想と信念を持って、定住自立圏構想の推進に邁進していくことをここに決意し、圏域の中心的な役割を果たす「定住自立圏中心市」となることを内外に宣言する。

平成 21 年 4 月 24 日

八女市長 **三田村 統之**

## 1. 八女市における都市機能の集積状況

八女市本庁舎をはじめ地方自治体の公共施設及び国の出先機関については、八女市街地に集中立地している。

公共施設等による各種サービス機能、中核的な医療機能、商業・娯楽機能、教育・文化機能、その他行政及び民間分野における都市機能の集積状況は概ね以下のとおりである。

	八女市に集積している 都市機能	施設名	摘要
医療・福祉	総合病院	公立八女総合病院	
		公立八女総合病院	
	救急病院	川崎病院	
		柳病院	
	福祉施設	児童センター	
		多世代交流館	
		母子生活支援施設	
		社会福祉会館	
		保健センター	
		特別養護老人ホーム(2)	
		ケアハウス(1)	
		老人保健施設(3)	
学童保育所			
教育	高校	県立福島高等学校	
		県立八女農業高等学校	
		西日本短期大学附属高等学校	私立
	中高一貫校	八女学院中学高等学校	私立
	専門学校	八女筑後看護専門学校	
	幼稚園	私立 4 園	
	教育施設	県立ふれあいの家	
		勤労青少年ホーム	
	図書館	市立図書館	
	公民館	市立 3 館	
産業	工業団地	今福工業団地	
		室岡工業団地	

		鵜池第1工業団地 鵜池第2工業団地	
	商店街	11商店街	
	大規模小売店舗	スーパー5・専門店6・ホーム センター2・ショッピングセン ター1	1,000㎡以上
金融機関等	銀行・信金・労金	銀行5・信金1・労金1	出張所含む
	郵便局	12局	簡易含む
	J A	本店1・支店4・地区センター2	
情報・文 化・スポー ツ・観光	文化施設	市町村会館(リニューアル予定) 八女文化会館 図書館	
	スポーツ施設	総合体育館 庭球場 弓道場 野球場 サッカー場 ゴルフ場	
	健康増進複合施設	べんがら村	プール・温泉
	観光施設	伝統工芸館 民俗資料館 手すき和紙資料館 岩戸山歴史資料館 横町町家交流館 ほたと石橋の館 ふるさとわらべ館	
交通	自動車専用道路	九州自動車道 八女 IC	
	一般国道	国道3号 国道442号	
	主要地方道	7路線	
	一般県道	1路線	
	公共交通	路線バス(2社)	
	自動車教習所	自動車学校	
国・県・広 域行政機関	警察	八女警察署	
	消防	八女消防本部	

		消防署(2 署)	
	国	福岡法務局八女支局 福岡地方検察庁八女区検察庁 福岡地方裁判所八女簡易裁判所 福岡家庭裁判所八女支部 福岡地方裁判所八女支部 福岡国税局八女税務署 八女労働基準監督署 八女公共職業安定所	
	県	八女保健福祉環境事務所 八女土木事務所 農業改良普及センター	
	広域	シルバー人材センター し尿処理場 斎場 介護保険広域連合	

## 2. 周辺市町村住民の本市都市機能の利用状況

### (1) 医療機関

八女地域内の病院施設の大部分は八女市内に集中している。福島校区内にある公立八女総合病院は、八女市・広川町・黒木町・立花町・矢部村・星野村の1市3町2村が開設する総合病院である。八女地方の地域中核病院として19診療科、病床数330床の体制と、地域がん診療拠点病院として地域包括ケアシステムの構築に力を入れている。

公立八女総合病院利用者数

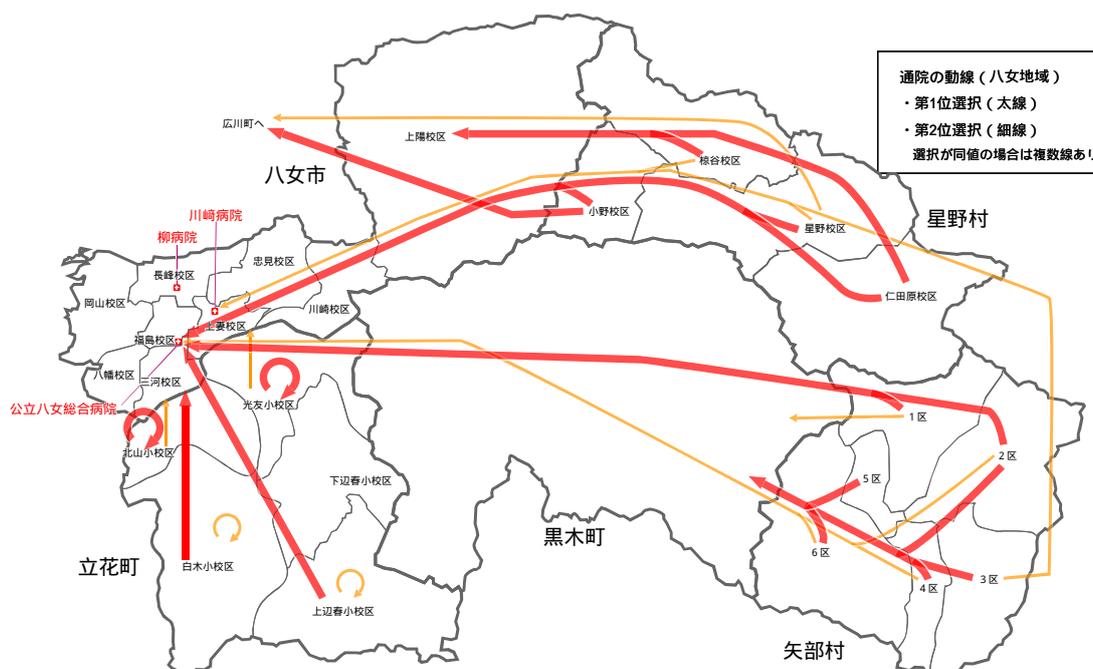
平成17年4月～平成20年3月

市町村	入院	外来	計	構成比(%)
八女市	126,839	216,385	343,224	51.3
立花町	43,780	59,185	102,965	15.4
広川町	31,928	47,371	79,299	11.9
黒木町	44,752	50,145	94,897	14.2
星野村	15,474	16,707	32,181	4.8
矢部村	7,071	9,268	16,339	2.4
合計	269,844	399,061	668,905	100.0

## 通院における動線（全域）

## 【特長】

- ・各地区からの動線は、福島校区に集中し、「公立八女総合病院」が主要な目的地となっている。
- ・矢部村からの動線も、八女市までの移動となっておりカバーが必要である。
- ・「公立八女総合病院」までの路線バスの利用が不便なため、病院までの2次交通の確保や、直接移動できる手段の確保は必須と想定される。



資料 八女市地域公共交通総合連携計画

## （2）教育施設

八女市内の学校施設は、八女市が小学校 9・中学校 6、高校 4、である。

## 八女市への 15 歳以上通学者

市町村名	八女市への通学者	当地在住通学者数	八女市への通学率(%)
筑後市	409	2,787	14.7
広川町	257	1,205	21.3
立花町	231	611	37.8
黒木町	160	748	21.4
星野村	88	196	44.9
矢部村	10	38	26.3
八女市	1,005	2,044	49.2
(旧上陽町)	81	197	41.1

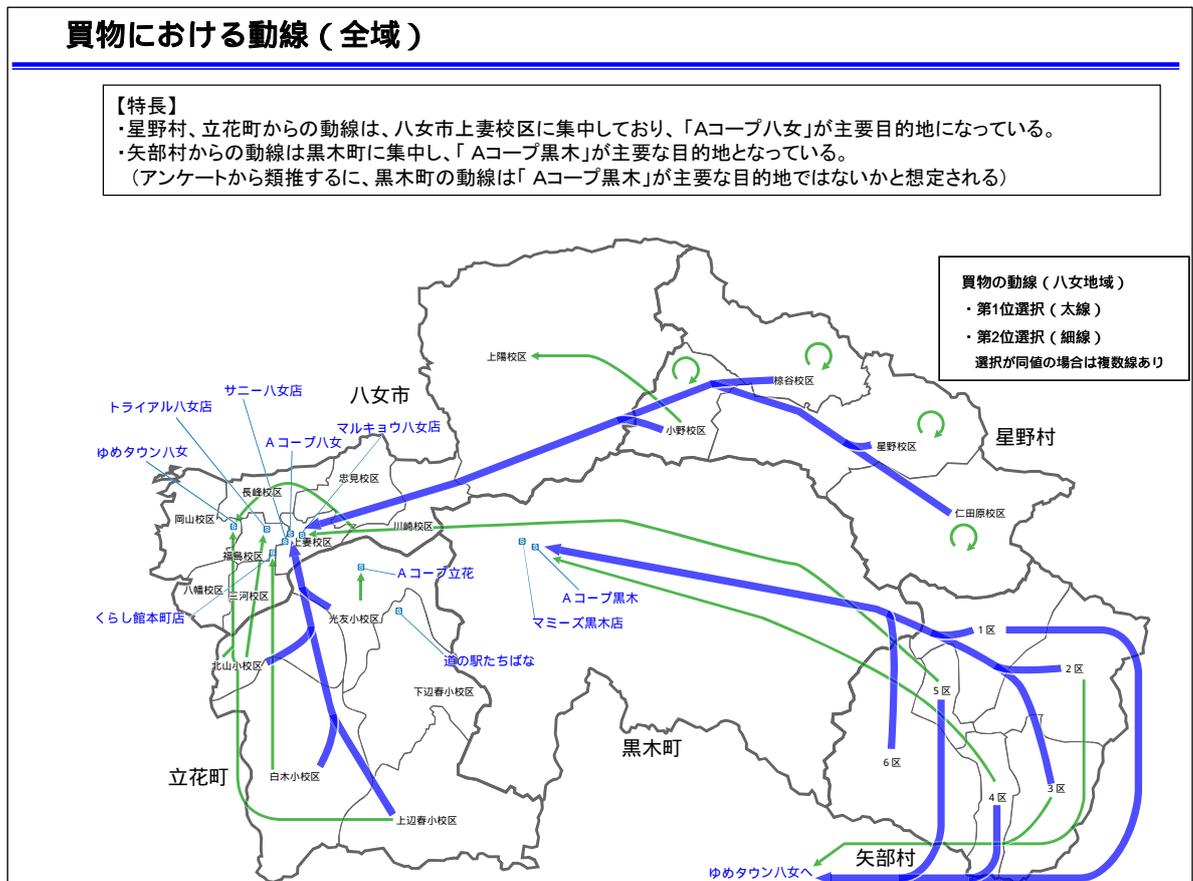
出典 平成 17 年度国勢調査

### (3) 商業施設

八女市に出店する大規模小売店舗(店舗面積 1,000 m<sup>2</sup>以上)は、14 店舗である。業態はスーパーが 5 店舗、専門店が 5 店舗、ホームセンター3 店舗、ショッピングセンター1 店舗である。立地特徴は郊外道路型である。

大型店舗は八女市の中心部とその周辺部、国道 3 号、442 号の沿線に密集している。

買物先は、八女地域では八女市内の大規模店舗等の利用が多い。



資料 八女市地域公共交通総合連携計画

### (4) 路線バス

八女地域で運行されている民間路線バスは、9 路線がある。また、久留米都市圏への路線など別途 2 路線、さらに福岡都市圏へと結ぶ高速バスが 1 路線ある。

圏域内全体の傾向としては、朝夕の通勤・通学時間帯に利用者が多く、筑後市・八女市・黒木町のバス停での乗降者数が多い。

路線ごとでは、矢部方面・星野方面の朝夕の利用が多く、JR 駅からの八女方

面の通勤・通学利用者が多いためである。

#### 地元民間路線バスの運行状況

路線名等		路線地域	1日あたり運行便数
羽矢線	至福島	筑後市～八女市	6
	至柴庵	筑後市～八女市～黒木町～矢部村	18
	至黒木	筑後市～八女市～黒木町	39
田代線		黒木町～黒木町南部方面	13
星野線		八女市～星野村	24
横山線		八女市～旧上陽町方面	10
笠原線		黒木町～黒木町北部方面	15
白木線		八女市～立花町南部方面	20
辺春線		八女市～立花町南西部方面	12
広川線		八女市～広川方面	1
久留米線		八女市～広川～久留米方面	10

資料 八女市地域公共交通総合連携計画より抜粋

### 3. 周辺市町村と連携することを想定する取組

#### (1) 生活機能の強化に係る政策分野

##### 医療

##### 地域保健医療体制

- ・ライフステージに応じた健康づくりを支援するとともに、医療・保健・福祉との連携を強化することによって地域保健医療活動や小児救急医療体制拡充等の一層の向上を図る。
- ・地域間にある医療機関の受診機会の格差解消を図る。
- ・ITを活用した遠隔医療システムの構築を図る。

##### 福祉

##### 地域福祉

- ・地域福祉の向上のために、総合的な福祉体制の整備及びボランティア・NPO活動の促進を図り、在宅福祉サービスの向上に努める。
- ・児童・高齢者・しょうがい者などが安心して生活できるまちづくりを行なうなど諸施策を講じる。

##### しょうがい者福祉

- ・しょうがい者の福祉の向上と自立支援のため、雇用の促進、総合的な福祉サービスの充実などの諸施策を講じる。

#### 高齢者福祉

- ・高齢者が住み慣れた地域で介護予防に重点をおいた包括的なケアや支援を受けることができるよう、地域や各種関係機関と連携を図る。
- ・介護保険事業制度の安定的な運営を図るとともに、地理的条件の不利な地域での介護サービスの確保に努める。

#### 児童福祉

- ・次世代育成の視点から、多様な保育ニーズに対応できる保育所や地域子育て支援拠点事業の充実など、安心して子どもを産み育てる環境を整備する。

#### 教育

##### 生涯学習

- ・各世代における市民ニーズを把握しながら、様々な生涯学習施策を総合的かつ計画的に講じる。

##### 学校教育

- ・学校の組織体制の工夫・充実及び教職員の資質向上に努めるとともに、少人数教員の配置、施設の整備など教育環境づくりを図る。

##### 社会教育

- ・多種多様な市民の学習ニーズに対応するため、行政と連携する社会教育団体や市民ボランティア組織の育成を図るとともに、社会教育を実施する指導者を育成する。

#### 産業振興

##### 農林業

- ・森林や竹林、棚田などを貴重な地域資源として捉え、その保全や活用に努める。

##### 工業

- ・新たな就業機会を確保するため、工場適地の確保や工業団地などの基盤整備に努めるとともに、企業誘致活動を積極的に行なう。

##### 商業

- ・中心地区商店街の活性化を推進し、魅力ある商店街づくりを推進する。

## (2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

#### 地域公共交通

- ・過疎化や高齢化が進行する山間地や、路線バス廃止による交通空白地帯における住民の移動手段の確保として、ドアトゥードアのデマンド交通シ

システムを導入した新公共交通システムの構築に向けた取り組み

デジタル・ディバイドの解消に向けたICTインフラ整備

- ・ ICT を積極的に活用した情報通信条件不利地域における行政情報・防災情報等地域間情報のデジタル・ディバイドの解消に向けた取り組み

道路等の交通インフラの整備

- ・ 主要幹線道路、県道などの幹線道路の整備促進並びに補助幹線道路、生活道路などの整備を進め、体系的に調和のとれた道路網の整備と広域的な交通体系の整備を推進する。

地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

- ・ 食育の推進、学校給食への地元産物提供、直売所の充実、農産物の域内流通促進など地産地消の推進を図る。

地域内外の住民との交流・移住促進

観光

- ・ 観光施設の整備と各観光施設間のネットワークを図るとともに、歴史資源や伝統産業、奥八女の水と緑の魅力を一体化した新たな観光ルートを開発し、都市圏との交流人口増、地域の特性を活かした観光事業を推進する。

移住・交流

- ・ 人材交流の場の整備や、Uターン・Iターン人材との交流、誘致を図る。

### (3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

宣言中心市等における人材の育成

- ・ 職員研修の充実など人材育成による職員の能力向上

圏域内市町村の職員等の交流

- ・ 圏域内職員等の人事交流による連携の強化

#### 4. 八女市への通勤通学割合

(平成 17 年国勢調査数値より)

市町村名	筑後市	広川町	黒木町	立花町	矢部村	星野村
従業・通学者総数	21,910	8,876	5,022	4,106	556	1,135
八女市への通勤通学者数	2,553	1,522	1,125	1,322	46	245
八女市への通勤通学割合	11.7%	17.1%	22.4%	32.2%	8.3%	21.6%
八女市への通勤通学者順位	2	2	1	1	1	1
昼夜間人口比率	0.97	0.90	0.88	0.83	0.97	0.93

従業・通学者総数は自宅従業者を除いた数

八女市への通勤通学割合が 10%以上ある市町村

筑後市・広川町・黒木町・立花町・星野村

八女市への通勤通学者順位が 1 位の市町村

黒木町・立花町・矢部村・星野村

上記のことから、八女市を中心とした周辺市町村との通勤通学の圏域が構成されているといえる。